

大阪府河川構造物等審議会「令和2年度第2回 気候変動検討部会」 傍聴者意見

開催日時	令和2年11月10日 火曜日 午前10時00分から午前12時00分まで
場所	大阪府西大阪治水事務所 1階 AB会議室 (Web会議)

(中村氏)

住之江区の中村です。2分半はしんどいんで伸びるかと思いますが、御配慮いただきたいと思います。

まずは大きい点は、まとめ方としてぜひお願いしたいのですが、11月4日の日にこの河川構造物等審議会の中に景観部会というのがつくられて、そこで今後どんな景観のものをつくっていくかという議論がされていて、私は非常に無意味だと思うんですが、その中の資料に躯体の設計は現在条件で行うと、これでもって詳細設計に入りますよというような説明がありました。

今回のやつもこのまとめを見ている中でいろいろなことを配慮してますよ、考慮してますよとあるんですが、いつの時点に何をやるかがさっぱり、先ほど議論があったかも分かりませんがよく分かりません。少なくとも現段階ではこういう条件でこういうことを考慮して、こういう数値でもって設計しますよと。次の5年後はこんな数値になりますよと。次の5年後はこうなりますよということで、大体、三大水門がおおむね設計が終わるんじゃないかと思う。その後50年、2050年頃にはこんな考え方を取り入れたこういうものをやりますと。先ほど言いました15年とか10年になれば、先ほど森先生のお話があったように、シミュレーションがもう少し細かくできるかも分からないというような状況もあるわけですから、その2050年はこうなる。2100年頃にはこういう条件で設計できるようになりますよということが一目、いわゆる可視化というんですか、一遍、我々素人が見ても分かるような形にぜひしていただきたいと思います。

それから2点目ですが、先ほど少しあった津波の問題ですが、これ、景観委員会で津波のときの対応策は何も書かれていません。その津波問題のときにこの河川構造物等審議会ではその漂流物がぶつかったときの防護策としてどのような防衝工をやるべきなのか、そういうことが細かく議論、過去されています。ところが最終的な答えも出ていません。木津川の下流なんか1万トンの貨物船が係留する場所もあるんじゃないかと思います。そういうものに複数の橋桁とか船舶が合わせて何隻もぶつかってきたときにもつ構造物って本当にあるんだろうかと、そういうものはこうして解決できますよという解決策をつくった上で文言にぜひしていただきたいと思います。こういうことを配慮しますだけでは今言いましたように、その景観委員会では現状で設計しますよということで、この問題はその三大水門について5、6年前ですが、副水門も耐震補強やられるというときに、そういう工事をやるときには整備計画をつくった上で工事に着手すべきところが、まだそれは認可の申請中でその補助金を出され、国もその補助金を取られたということで国に聞きましたら、この補助金は一見、補助金ではなく交付金でやっていて、それは大阪府の勝手でしょうというような詭弁がありましたので、それ以上私も議論できないんでそうですかと下がってありますが、あるところで非常に無法というか違法というか、我々心配していることを全然考慮なく事業は進んでいく傾向にあると思います。

それから、これはこの第1回目の委員会でやったと思うんですけど、これも大問題です

が、この三大水門の天端高をどうするかを議論したらいいだろうという御意見もありましたが、その防災という立場で市民の立場、府民の立場から見れば、周辺の防潮堤とか河川堤防はどうなってくるんだと、これもその数値が分かんないんではっきりしたことは言えませんが、この数値を見ればあの大きいところでは1メートルぐらいかさ上げしないと駄目なようなことも想定されるんじゃないかと、そういう防潮堤ですから、今年10センチ、来年10センチというような工事は地元が多分受け入れてくれないと思いますから、ある一定の高さを決めて全体を、この防潮堤のかさ上げについても、L1津波に対して木津川近辺をなだらかな河床勾配にして、水門を閉めなければ、ほとんど越流しないと思いますが越流しても10センチ前後ではないかと、私は思います。その10センチのかさ上げが膨大な経費と社会条件が許してくれないからそういう対策は受けないということで、この三大水門は閉めるという答えになったら、その辺を、ぜひこの河川構造物等委員会は委員も御議論ありましたが、トータルを見計らって、トータルを共感した上で今はこういう対策、これから5年後、10年後はこんなことになるんで、こういう対策をやっていくから安心して下さいよと言えるようなこの三大水門の改築方法を提案していただきたいと思います。よろしくお願いします。